

BLUE SKY STADIUM

プロジェクト名：Blue Sky Stadium

リアル作品名：野球盤、ネジ人間

リアル作品作者：青い空

制作年：2022年～2023年

リアル作品素材：ミクストメディア

主催／企画制作：中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

メタバース制作：特定非営利活動法人 MORILAB

※当事業は厚生労働省 令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業の一環として行われています。

プロジェクトについて

中国・四国 Artbrut Support Center passerelle（以降：パスレル）では、障害者の芸術文化活動の発表機会と鑑賞機会の拡張を目指し、メタバース空間での体験型展示空間を制作しています。リアル空間で制作されたものを足掛かりにして作品の解釈を試み、バーチャル空間ならではのリアルな体験へと編集します。ここでは障害者作品の体験型コンテンツを目指し、近年特にビジュアル情報として消費されてしまう傾向にある制作物を、メタバースを通じてよりプリミティブな体験へと誘うことを試みます。

障害特性の全方位を取り入れることはまだまだ不可能なことはありますが、リアル空間での機会享受が困難な方々にとってひとつの享受可能な場となると考えています。

Blue Sky Stadiumはこのコンセプトをより深く実現していく為の第一歩の実験場的空間として構築しました。パスレルでは、障害者を対象とした公募型のメタバース企画を行っていきます。リアル世界での表現行為をデータ化する方法は日進月歩で身近な道具で可能になりつつあります。公募ごとにパスレルがサポートしていく予定ですので、自らデータ化が行える障害当事者の方、支援者や事業所の方々はぜひ挑戦いただきたいです。

BLUE SKY STADIUM

野球盤ができるまで

『Blue Sky Stadium』プロジェクトは、NPO 法人 脳損傷友の会高知 青い空（以降：青い空）の活動から制作された「野球盤」という作品をメタバース化したものです。青い空は事故などの後遺症で「高次脳機能障害」を抱えている方々やその他の障害のある方々の就労や生産活動の場を提供しており、機械類の解体などの様々な活動を通じて、知識と能力の向上に必要な訓練を行っています。こういった作業から出る廃材を廃棄するのではなく、素材（マテリアル）としてリユースやアップサイクルすることにも取り組んでいます。



球場の芝生やフェンスは機械についている基盤を使っています。基盤には色々な部品が付いているため、一つ一つ部品を取り除く必要がありますが、これが時間のかかる作業でした。1つの基盤をきれいに処理するのに約10分かかります。



BLUE SKY STADIUM

細かい調整の必要な作業でした。
外した基盤の部品で観客席を作ります。
線を引くのも大変です。
丸く基盤を切るのは手作業なので大変です。
何と言っても手が痛い。。



それでもコツコツ制作を続け、やがて出来上がりが見えてくると、作成に携わっていない他作業仲間の人たちも関心を示してくれるようになりました。そして作業の中からネジ人間の野球選手も誕生します。観客席にはネジ人間を座らせようというアイデアが生まれ、野球場作成班とは別のネジ人間班が結成されます。すると観客席も埋まってきました。ネジ人間もどんどん表情が豊かに変わり始めました。仲間同士で出来上がったネジ人間を見せ合い、お互いに刺激をしいながら、独創的なネジ人間が出来上がりました。

野球盤は青い空の皆さんで意見を出し合い、失敗を重ねながらなんとか完成させることができました。作成にはのべ3か月を費やしました。

テキスト、写真提供：青い空職員

